

事項	県内で数種の花きに発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス (INSV) の病徴																																
ねらい	平成 14 年に中南地域のトルコギキョウで INSV が確認されて以来、県内で数種の花きに INSV の発生が相次いでおり、被害の拡大が懸念される。そこで、これまで確認された INSV の発生状況及び病徴を示し、診断と防除対策の参考に供する。																																
指導参考内容	<p>1 本県で確認された花きの INSV</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>発生年月</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トルコギキョウ</td> <td>2002年 8月</td> <td>少発生・県内初確認</td> </tr> <tr> <td>トルコギキョウ</td> <td>2003年 8月</td> <td>多発生</td> </tr> <tr> <td>トルコギキョウ</td> <td>2003年 8月</td> <td>自家育苗</td> </tr> <tr> <td>ロベリア</td> <td>2003年 7月</td> <td>多発生・県外業者から苗購入</td> </tr> <tr> <td>プリムラ</td> <td>2003年11月</td> <td>多発生・自家育苗</td> </tr> <tr> <td>ロベリア</td> <td>2004年 6月</td> <td>多発生・県外業者から苗購入</td> </tr> <tr> <td>トルコギキョウ</td> <td>2004年 8月</td> <td>多発生</td> </tr> <tr> <td>ニューギニアインパチエンス</td> <td>2004年11月</td> <td>別病害の診断中に発生</td> </tr> <tr> <td>アネモネ</td> <td>2004年12月</td> <td>多発生・県外業者から苗購入</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 品目ごとの症状</p> <p>(1) ロベリア：茎葉の一部が退緑、著しい場合は株全体が黄化し、生育不良となる。葉には輪紋を持つえそ斑点が多数生じる。</p> <p>(2) プリムラ：株全体に葉色が淡くなり、生育不良となる。葉はモザイク症状となり、時に輪紋を持つ褐色えそ斑を生じる。</p> <p>(3) ニューギニアインパチエンス：葉が波打つように湾曲したり、ねじれ、小型の褐色えそ斑を生じる。これらの葉は容易に脱落する。</p> <p>(4) アネモネ：葉がモザイク症状となり、褐色えそ斑点を伴う。</p> <p>3 防除対策</p> <p>INSV はトマト黄化えそウイルス (TSWV) と近縁のウイルスであるので、発生生態等は TSWV に類似する。したがって防除対策としては、</p> <p>(1) 購入苗などでの持ち込みに注意</p> <p>(2) 発病株の徹底した除去・処分</p> <p>(3) 媒介虫であるアザミウマ類の徹底した防除</p> <p>(4) 周辺雑草、収穫しない花き等アザミウマ類の飛来源・増殖源の除去</p>			品目	発生年月	備考	トルコギキョウ	2002年 8月	少発生・県内初確認	トルコギキョウ	2003年 8月	多発生	トルコギキョウ	2003年 8月	自家育苗	ロベリア	2003年 7月	多発生・県外業者から苗購入	プリムラ	2003年11月	多発生・自家育苗	ロベリア	2004年 6月	多発生・県外業者から苗購入	トルコギキョウ	2004年 8月	多発生	ニューギニアインパチエンス	2004年11月	別病害の診断中に発生	アネモネ	2004年12月	多発生・県外業者から苗購入
品目	発生年月	備考																															
トルコギキョウ	2002年 8月	少発生・県内初確認																															
トルコギキョウ	2003年 8月	多発生																															
トルコギキョウ	2003年 8月	自家育苗																															
ロベリア	2003年 7月	多発生・県外業者から苗購入																															
プリムラ	2003年11月	多発生・自家育苗																															
ロベリア	2004年 6月	多発生・県外業者から苗購入																															
トルコギキョウ	2004年 8月	多発生																															
ニューギニアインパチエンス	2004年11月	別病害の診断中に発生																															
アネモネ	2004年12月	多発生・県外業者から苗購入																															
期待される効果	各種花きに発生する INSV の病徴が明らかになることにより、早期発見が可能になり、被害拡大を防止することができる。																																
利用上の注意事項	<p>1 品種や栽培環境によって病徴が異なることがあるので、疑わしい症状が発生した場合には、関係機関に診断を依頼する。</p> <p>2 トルコギキョウの病徴等については、平成 15 年度指導参考資料に記載した。</p>																																
担当	青森県農林総合研究センターフラワーセンター 21 あおもり 生産技術部 青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 病害虫防除室 青森県農林総合研究センターグリーンバイオセンター	対象地域	県下全域																														
発表文献等	平成 15～16 年度 フラワーセンター 21 あおもり 試験成績概要集																																

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 ロベリアの被害株



写真2 ロベリアの葉えそ斑紋

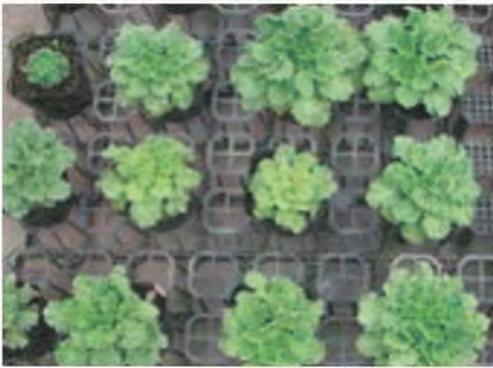


写真3 プリムラの被害株



写真4 プリムラのモザイク症状とえそ斑点



写真5 ニューギニアインパチエンスの葉の湾曲・ねじれ



写真6 ニューギニアインパチエンスのえそ斑点



写真7 アネモネの被害株



写真8 アネモネのモザイク症状とえそ斑点